

自己評価報告書

平成23年 4月25日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330160

研究課題名（和文） 日本中世の「大学」における社会連携と教育普及活動に関する研究

研究課題名（英文）

研究代表者

高橋 慎一郎 (TAKAHASHI SHINICHIRO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：10242155

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育史、日本史、大学、都市、寺院、高野山、五山禅僧

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、日本中世における高等教育機関としての大寺院が都市・社会とどのように連携し、どのような教育普及活動を展開したのか？という問題を、一次史料の調査収集のうえに追究し、中世ヨーロッパとの比較の視点を加えつつ考察することで、日本の大学史における暗黒時代ともいべき中世について、その「大学」像を確立することにある。同時に、今日ますます模索されているところの大学と都市・社会との連携のあり方について、参照すべきひとつのモデルを提示することをも期している。

具体的には、戦国時代に来日した F.ザビエルが大学と呼んだ6箇所から京都五山・比叡山・高野山そして足利学校の4箇所を主たる考察対象に指定し、都市・社会との関係に注目しつつ、高等教育機関としての特性を明らかにする。そのうえで、比較の視点を重要し、諸機関（寺院）相互、あるいは西欧中世の大学との相違・共通点に注目しながら、日本中世の「大学」像を明確にしていく。

2. 研究の進捗状況

(1)『大日本古文書 高野山文書』全7冊についてフルテキストデータベース化を行った。業者による入力と、謝金（雇用）によるデータ校正を経て、全冊を東京大学史料編纂所のウェブサイト上で公開している。データベース化により、史料の多様な検索が可能になり、高野山金剛峯寺における教育普及活動のひとつである「談義」関係の史料の多角的な分析が可能になった。

(2)中世高野山から発信された教育普及活動の痕跡として、広範に存在している木版印刷による仏教教理のテキスト出版物（いわゆる

「高野版」）の調査を行い、その伝来・受容の過程を検討した。主たる調査先は、高野山大学図書館・京都市醍醐寺・和歌山県立博物館である。

(3)各地の寺院の所蔵史料（文書・聖教・典籍など）の調査によって、中世寺院における学習活動の実態を分析した。特に、研究代表者高橋は、醍醐寺に素材をとりつつ、中世寺院における諸活動が近隣社会と密接な関連を有していたことを明らかにした。主たる調査先は、京都市醍醐寺・同市勧修寺・同市実相院・香川県萩原寺・鎌倉市浄光明寺である。

(4)京都における五山禅僧の教育普及活動を探るため、室町時代の貴族の日記における五山禅僧の所見を収集し、データベース化をおこなった。

(5)ヨーロッパ中世の大学との比較研究をおこなうために、科研メンバーを対象とする小研究会「ヨーロッパ中世の大学と社会」を開催した。また、パリのカルチュ・ラタン地区に赴き、ソルボンヌ、ベルナル、ボーヴェ等の中世の大学学寮跡の調査をおこなった。

(6)研究のまとめに向けて、科研メンバーによる研究経過報告を中心とした小研究会を開催した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

一次史料の収集・分析については、ほぼ当初の予定どおりに進展している。なお、『大日本古文書 高野山文書』のフルテキストデータベース化や、五山禅僧に関する所見の集成は、本研究において有用であるにとどまらず、今後様々な研究の基盤ともなるであろう。

また、西洋中世史を専門とする連携研究者

の積極的な活動により、比較史的な観点からの研究もすすんでいる。全体的に順調な進展をみていると評価することができる。

4. 今後の研究の推進方策

これまで一次史料の調査・収集を行うとともに、その分析をすすめてきたが、問題を具体的に究明するためには、追加調査が必要であることが明らかになっており、最終年度も、その作業を継続する。

また、科研メンバーによる研究会を実施し、これまでの検討にもとづき、日本中世の寺院の教育普及活動に関する研究と、中世ヨーロッパの大学に関する史的研究、教育学における教育史に関する研究との融合をめざして研究成果のとりまとめをすすめる。

なお、研究成果は、論文という形態のほか、一次史料の分析にもとづく資料集という形態での公開が有効だと判断しており、それらを公表する媒体として研究成果報告書の刊行を予定している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①末柄 豊、畠山義総と三条西実隆・公条父子—紙背文書から探る—、加能史料研究、査読無し、22号、1～27頁

②高橋慎一郎、鎌倉と災害、中世都市研究、査読無し、14号、2008年、141～160頁

③末柄 豊、『不問物語』をめぐって、年報三田中世史研究、査読無し、15号、2008年、1～37頁

〔学会発表〕(計1件)

①高橋慎一郎、醍醐寺文書から読み解く中世の社会、シンポジウム醍醐寺の歴史と文化財、2009年11月14日、日本女子大学

〔図書〕(計6件)

①高橋慎一郎(編著)高志書院、列島の鎌倉時代—地域を動かす武士と寺社—、2011年、全261頁

②高橋慎一郎(編著)高志書院、善光寺の中世、2010年、7～20頁

③高橋慎一郎(共著)、東京大学出版会、伝統都市2 権力とヘゲモニー、2010年、155～178頁

④高橋慎一郎(単著)、高志書院、中世都市の力—京・鎌倉と寺社—、2010年、全239頁

⑤高橋慎一郎(編著)、吉川弘文館、史跡で読む日本の歴史 6 鎌倉の世界、2010年、全258頁

⑥高橋慎一郎(共編著)、東京大学出版会、中世の都市—史料の魅力、日本とヨーロッパ—、2009年、全269頁

〔その他〕

ホームページ「中世の大学」科研

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/shinichi/daigaku.htm>